

2023年3月期 第2四半期決算説明会

2022年10月27日
株式会社オリエンタルランド



I. 決算概要

II. 通期業績予想の上方修正

III. ファンタジースプリングス 開業時期および投資額の変更について

I. 決算概要

1. 上半期実績(前年同期比較)

(億円)

連結損益計算書	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	増減	増減率
売上高	975	2,040	1,064	109.1%
テーマパーク事業	751	1,646	894	119.0%
ホテル事業	180	338	158	87.6%
その他の事業	43	56	12	28.5%
営業利益	△ 193	379	573	-
テーマパーク事業	△ 180	313	494	-
ホテル事業	△ 5	69	74	-
その他の事業	△ 9	△ 4	5	-
経常利益	△ 185	385	571	-
税金等調整前四半期純利益	△ 185	385	571	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	△ 141	264	406	-

入園者数とゲスト1人当たり売上高の増加などから売上高が増加し、黒字に転換

4

1. 上半期実績(前年同期比較)

前年同期と比較して、入園者数とゲスト1人当たり売上高の増加などから売上高が増加し、黒字に転換しました。

1. 上半期実績(前年同期比較)－主な増減要因

テーマパーク事業①	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	増減	増減率
売上高(億円)	751	1,646 ^{*1}	894	119.0%
入園者数(万人)	390	894	504	129.1%
ゲスト1人当たり売上高(円)	14,877	15,683	806	5.4%
アトラクション・ショー収入 ^{*2}	6,938	7,590	652	9.4%
商品販売収入	4,808	4,896	88	1.8%
飲食販売収入	3,131	3,197	66	2.1%

^{*1} 2022年5月末を以って払い戻しを終了した有効期限切れチケットの収入34億円を売上高に計上しています。ゲスト1人当たり売上高には含まれません。
^{*2} 2022年3月期の実績はチケット収入、2023年3月期の実績はアトラクション・ショー収入です。詳細はAppendix P23をご参照ください。

入園者数の増

- ・入園者数の制限緩和による増

ゲスト1人当たり売上高の増

- ・アトラクション・ショー収入の増
 - － ディズニー・プレミアアクセスの増
 - － 変動価格制による高価格帯チケットの構成比の増
 - － 東京ディズニーリゾート・パッケージの増
- ・商品販売収入の増
 - － 食品の増
 - － グッフィー&フレンズ新商品の増
- ・飲食販売収入の増
 - － アルコール販売再開による増

入園者数およびゲスト1人当たり売上高の増により売上高が増加

1. 上半期(前年同期比較)－主な増減要因

テーマパーク事業の売上高は、894億円増の1,646億円となりました。

入園者数につきまして、前年同期は千葉県に緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発出されていたことなどから厳しい入園者数制限が続きました。今期は「遊園地・テーマパークにおける新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」が今年3月に改訂され、ソーシャルディスタンスの規制が緩和されましたので、キャストの採用状況、そしてゲストの満足度や待ち時間などを総合的に勘案し、段階的に入園者数の上限を引き上げてきました。

ゲスト1人当たり売上高は、アトラクション・ショー収入、商品販売収入、飲食販売収入ともに増加し、806円増の15,683円となりました。

1. 上半期実績(前年同期比較) - 主な増減要因

(億円)

テーマパーク事業②

	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	増減	増減率
売上高	751	1,646	894	119.0%
営業利益	△ 180	313	494	-

営業利益の増

(億円)

売上高の増		諸経費の増	△ 40
商品・飲食原価率の減	30	エネルギー費の増	△ 13
人件費の増	△ 87	販売促進費の増	△ 7
前期と当期の雇用調整助成金*の受給差額	△ 54	事業税の増	△ 6
準社員人件費の増	△ 14	その他	△ 13
正社員人件費の増	△ 13	減価償却費の増	△ 5
その他	△ 4		

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。
*雇用調整助成金の受給金額を営業費用から控除しています。

費用は増加したものの、売上高の増加などにより、黒字に転換

6

1. 上半期(前年同期比較) - 主な増減要因

テーマパーク事業の営業利益は、
人件費や諸経費が増加したものの、
売上高の増と商品・飲食原価率の減により、
494億円増加し、313億円となりました。

1. 上半期実績(前年同期比較) – 主な増減要因

(億円)

ホテル事業	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	増減	増減率
売上高	180	338	158	87.6%
ディズニーホテル	167	312	145	87.3%
その他ホテル	13	25	12	91.5%
営業利益	△ 5	69	74	-

売上高の増

- ・ 当期、販売客室数の制限を緩和したことによる宿泊収入の増
- ・ 東京ディズニーリゾート・トイ・ストーリーホテルの開業による増

営業利益の増

- ・ 売上高の増
- ・ 人件費の増 (△ 15億円) – 東京ディズニーリゾート・トイ・ストーリーホテルの開業、労働時間の増
- ・ 諸経費の増
- ・ 減価償却費の増 (△ 6億円)

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。

当期は販売客室数の制限を緩和したことなどにより黒字に転換

その他の事業	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	増減	増減率
売上高	43	56	12	28.5%
営業利益	△ 9	△ 4	5	-

売上高の増

- ・ 乗降客数の増によるモレール事業の増加など

営業損失の減

- ・ 売上高の増

モレール事業の増収により営業損失が改善

1. 上半期(前年同期比較) – 主な増減要因

ホテル事業の売上高は、
当期は販売客室数の制限を緩和したことや、
東京ディズニーリゾート・トイ・ストーリーホテルの開業により、
158億円増の338億円となりました。
営業利益は、各費用が増加したものの、
売上高の増により黒字に転換し、74億円増の69億円となりました。

その他の事業の売上高は、
乗降客数の増加に伴うモレール事業の増収により、
売上高は12億円増の56億円、
営業損失は、5億円改善し、4億円となりました。

2. 上半期実績(期初予想比較)

(億円)

連結損益計算書	2023年3月期 期初予想	2023年3月期 実績	増減	増減率
売上高	1,928	2,040	111	5.8%
テーマパーク事業	1,542	1,646	103	6.7%
ホテル事業	332	338	5	1.7%
その他の事業	54	56	1	3.6%
営業利益	218	379	161	73.8%
テーマパーク事業	174	313	139	79.7%
ホテル事業	49	69	19	40.3%
その他の事業	△ 6	△ 4	2	-
経常利益	221	385	163	73.8%
税金等調整前四半期純利益	221	385	163	73.8%
親会社株主に帰属する四半期純利益	153	264	111	72.5%

ゲスト1人当たり売上高の増加や費用の減少などにより、
売上高と各利益が期初予想を上回った

8

2. 上半期実績(期初予想比較)

期初予想比較は、ご覧の通りです。
ゲスト1人当たり売上高の増加や費用の減少などにより、
売上高と各利益が期初予想を上回りました。

2. 上半期実績(期初予想比較)－主な増減要因

(億円)

テーマパーク事業①

	2023年3月期 期初予想	2023年3月期 実績	増減	増減率
売上高	1,542	1,646*	103	6.7%

* 2022年5月末を以って払い戻しを終了した有効期限切れチケットの収入34億円を売上高に計上しています。ゲスト1人当たり売上高には含まれません。

	2023年3月期 期初予想比較	主な増減要因
入園者数	下回った	新型コロナウイルス感染症流行の影響による減
ゲスト1人当たり売上高	上回った	
アトラクション・ショー収入	上回った	・東京ディズニーリゾート・バケーションパッケージの増 ・ディズニー・プレミアアクセスの増
商品販売収入	上回った	・食品の増 ・レギュラー商品の増 ・ダッフィー & フレンズ新商品の増
飲食販売収入	上回った	・フードスーベニアの増 ・店舗営業再開による喫食機会の創出による増

TOPICS

9/8、ダッフィー & フレンズのリーナ・ベルが新登場



ゲスト1人当たり売上高の増により、期初予想を上回った

2. 上半期実績(期初予想比較)－主な増減要因

テーマパーク事業の売上高は、103億円増の1,646億円となりました。

入園者数につきまして、
上期は新型コロナウイルス感染症流行第7波の影響もあり、
レジャー市場の停滞感が長引いたため、下回りました。


ゲスト1人当たり売上高につきまして、
アトラクション・ショー収入は、東京ディズニーリゾート・バケーションパッケージと
ディズニー・プレミアアクセスの好調により、上回りました。

商品販売収入は、食品やレギュラー商品に加え、
9月に発売したリーナ・ベルの関連商品の好調により上回りました。

飲食販売収入は、
フードスーベニアの好調や店舗の営業再開による喫食機会の創出により、上回りました。

2. 上半期実績(期初予想比較) – 主な増減要因

(億円)

テーマパーク事業② 	2023年3月期 期初予想	2023年3月期 実績	増減	増減率
売上高	1,542	1,646	103	6.7%
営業利益	174	313	139	79.7%

営業利益の増

(億円)

売上高の増		諸経費の減	約30
商品・飲食原価率の減	約25	メンテナンス費の減	約10
人件費の減	約15	システム関連費用の減	約10
準社員人件費の減	約15	その他	約10

※減価償却費はほぼ同様

売上高の増加と各費用の減少により増益

10

2. 上半期実績(期初予想比較) – 主な増減要因

テーマパーク事業の営業利益は、
売上高の増加と各費用の減により、139億円増加し、313億円となりました。

商品・飲食原価率は、商品・飲食ともに
原材料高騰の影響が顕在化しなかったため、減少しました。

人件費は、
入園者数の減などにより準社員人件費が減したことなどから、減少しました。

諸経費は、メンテナンス費やシステム関連費の減などにより、減少しました。

なお、減価償却費はほぼ同様でした。

2. 上半期実績(期初予想比較) – 主な増減要因

HOTEL ホテル事業	(億円)			
	2023年3月期 期初予想	2023年3月期 実績	増減	増減率
売上高	332	338	5	1.7%
営業利益	49	69	19	40.3%

営業利益の増

- ・売上高の増
- ・諸経費の減

コストコントロールによる諸経費の減などにより営業利益が増加

その他の事業	(億円)			
	2023年3月期 期初予想	2023年3月期 実績	増減	増減率
売上高	54	56	1	3.6%
営業利益	△ 6	△ 4	2	-

ほぼ期初予想通り

2. 上半期実績(期初予想比較) – 主な増減要因

ホテル事業の売上高は、ディズニーホテルの好調により、5億円増の338億円となりました。営業利益は、東京ディズニーリゾート・トイ・ストーリーホテルの開業に伴う準備費用のコストコントロールによる諸経費の減などにより、19億円増の69億円となりました。

その他の事業は、ほぼ期初予想通りとなりました。

II. 通期業績予想の上方修正

1. 通期修正予想(前期・期初予想比較)

(億円)

連結損益計算書	2023年3月期 修正予想	2022年3月期 実績	対前期 増減	対前期 増減率	2023年3月期 期初予想	対期初予想 増減	対期初予想 増減率
売上高	4,421	2,757	1,664	60.3%	4,079	342	8.4%
テーマパーク事業	3,587	2,185	1,401	64.1%	3,277	309	9.4%
ホテル事業	710	474	236	49.8%	681	29	4.3%
その他の事業	123	97	25	26.6%	120	3	2.5%
営業利益	800	77	723	935.7%	502	298	59.4%
テーマパーク事業	635	25	610	-	372	262	70.3%
ホテル事業	165	62	103	166.4%	131	33	25.7%
その他の事業	△ 2	△ 13	10	-	△ 4	2	-
経常利益	806	112	693	614.8%	506	300	59.3%
税金等調整前当期純利益	806	116	689	589.0%	506	300	59.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	559	80	478	593.1%	352	206	58.7%
	2023年3月期 修正予想	2022年3月期 実績	対前期 増減	対前期 増減率	2023年3月期 期初予想	対期初予想 増減	対期初予想 増減率
入園者数 (万人)	2,000	1,205	795	65.9%	2,000	-	-
ゲスト1人当たり売上高 (円)	15,551	14,834	717	4.8%	14,318	1,233	8.6%
アトラクション・ショー収入*	7,628	7,049	579	8.2%	7,446	182	2.4%
商品販売収入	4,855	4,548	307	6.8%	3,865	990	25.6%
飲食販売収入	3,068	3,237	△ 169	△ 5.2%	3,007	61	2.0%

* 2022年3月期の実績はチケット収入、2023年3月期の期初予想および修正予想はアトラクション・ショー収入です。詳細はAppendix P23をご参照ください。

上半期実績の好調に加え、
下半期に売上高の増加を見込み、通期業績予想を上方修正

13

1. 通期修正予算 (前期・期初予想比較)

上半期実績の好調に加え、
下半期に売上高の増加を見込み、
通期業績予想を上方修正することとしました。

上半期は入園者数が期初予想を下回ったものの、
年間では期初予想で掲げた2,000万人から変更はありません。

上方修正した通期業績予想は、ご覧の通りです。

修正予想の上半期は確定した実績数値を用いて策定していることから、
下半期に焦点を当てて、ご説明します。

(億円)

連結損益計算書	2023年3月期 下半期修正予想	2022年3月期 下半期実績	対前期 増減	対前期 増減率	2023年3月期 下半期期初予想	対2023年3月期 下半期期初予想 増減	2023年3月期 下半期期初予想 増減率
売上高	2,380	1,781	599	33.6%	2,150	230	10.7%
テーマパーク事業	1,941	1,433	507	35.4%	1,735	205	11.8%
ホテル事業	372	293	78	26.7%	348	23	6.8%
その他の事業	67	53	13	25.1%	66	1	1.7%
営業利益	420	271	149	55.3%	283	137	48.3%
テーマパーク事業	321	205	115	56.3%	198	123	62.0%
ホテル事業	95	67	28	42.6%	81	13	16.9%
その他の事業	2	△ 3	5	-	2	0	2.6%
経常利益	420	298	121	40.7%	284	136	48.0%
税金等調整前四半期純利益	420	302	117	38.7%	284	136	48.0%
親会社株主に帰属する四半期純利益	294	222	71	32.3%	199	95	48.0%

期初予想から入園者数とゲスト1人当たり売上高の増による売上高の増加を見込み、増収増益の予想

14

2. 下半期修正予想

下半期の業績予想はご覧のとおりです。

入園者数とゲスト1人当たり売上高の増により、売上高および各利益は期初予想を上回る見込みです。

2. 下半期修正予想(期初予想比較) – 主な増減要因

(億円)

テーマパーク事業①

	2023年3月期 下半期期初予想	2023年3月期 下半期修正予想	増減	増減率
売上高	1,735	1,941	205	11.8%

	2023年3月期 下半期修正予想	主な増減要因
入園者数	上回る	レジャー需要の回復による増
ゲスト1人当たり売上高	上回る	
アトラクション・ショー収入	若干上回る	・ディズニー・プレミアアクセスの増 ・東京ディズニーリゾート・バケーションパッケージの増 ・入園時間指定券の構成比増による減
商品販売収入	上回る	・レギュラー商品の増 ・食品の増
飲食販売収入	若干上回る	・フードスーベニアの増 ・入園時間指定券の構成比増による減

入園者数およびゲスト1人当たり売上高の増により期初予想を上回る見込み

15

2. 下半期修正予想(期初予想比較) – 主な増減要因

テーマパーク事業の売上高は、205億円増の1,941億円を見込んでいます。

入園者数につきまして、

下期は、政府・自治体の観光需要の喚起策によってレジャー需要の回復が期待できることに加え、東京ディズニーシーの新規ナイトタイムエンターテイメント「ビリーヴ！～シー・オブ・ドリームス～」や各種スペシャルイベントなど、集客力の高いコンテンツを活用することで増加を見込み、年間では2,000万人から変更はありません。

ゲスト1人当たり売上高は、

時間指定で入園いただけるウィークナイトパスポートやアーリーブニングパスポートの構成比増などによる減を見込むものの、アトラクション・ショー収入は

ディズニー・プレミアアクセスと東京ディズニーリゾート・バケーションパッケージにより、若干上回る見込みです。

商品販売収入は、レギュラー商品や食品の好調などにより、上回る見込みです。

飲食販売収入は、フードスーベニアの好調により、若干上回る見込みです。

2. 下半期修正予想(期初予想比較) – 主な増減要因

(億円)

テーマパーク事業②

	2023年3月期 下半期期初予想	2023年3月期 下半期修正予想	増減	増減率
売上高	1,735	1,941	205	11.8%
営業利益	198	321	123	62.0%

営業利益の増

(億円)

売上高の増		諸経費の増	約△ 10
商品・飲食原価率の増	約△ 10	エネルギーの増	約△ 5
人件費の減	約5	メンテナンス費の増など	約△ 5
準社員人件費の減など	約5	減価償却費の減	約5

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。

売上の増加により営業利益が増加する見込み

16

2. 下半期修正予想(期初予想比較) – 主な増減要因

テーマパーク事業の営業利益は、売上高の増加などにより、123億円増加し、321億円となる見込みです。

商品・飲食原価率は、ともに為替の影響と原材料の高騰により増加する見込みです。

人件費は、継続的なオペレーションの見直しによる準社員人件費の減などにより、減少する見込みです。

諸経費は、エネルギー費の増や、上期に予定していたメンテナンスを後ろ倒ししたことにより増加する見込みです。

減価償却費は、新規資産取得の時期ずれなどにより減少する見込みです。

2. 下半期修正予想(期初予想比較) – 主な増減要因

HOTEL ホテル事業	(億円)			
	2023年3月期 下半期期初予想	2023年3月期 下半期修正予想	増減	増減率
売上高	348	372	23	6.8%
営業利益	81	95	13	16.9%

売上高の増

・ レジャー需要の回復による宿泊収入の増

営業利益の増

・ 売上高の増

レジャー需要の回復による売上高の増により増収増益

その他の事業	(億円)			
	2023年3月期 下半期期初予想	2023年3月期 下半期修正予想	増減	増減率
売上高	66	67	1	1.7%
営業利益	2	2	0	2.6%

期初予想とほぼ同様の見込み

2. 下半期修正予想(期初予想比較) – 主な増減要因

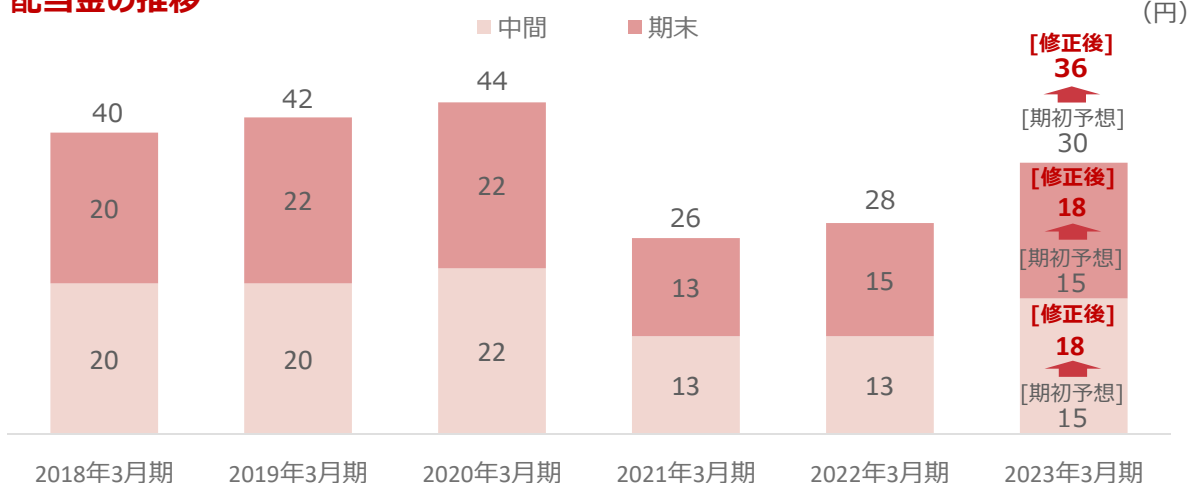
ホテル事業の売上高は、
レジャー需要の回復による宿泊収入の増により、23億円増の372億円となる見込みです。
営業利益は、売上高の増加により、
13億円増加し、95億円となる見込みです。

その他の事業は、期初予想とほぼ同様となる見込みです。

**中間および期末の配当金を期初予想から各3円増配し、
年間配当金は1株当たり36円を予想**

- 本中期経営計画期間中に配当金を新型コロナウイルス感染症流行前の水準に戻すことを目指す
- 2023年3月期第2四半期決算の実績と通期業績予想の見通しを考慮

配当金の推移



年間配当金を期初予想から6円増配

3. 配当について

当社グループは、2024中期経営計画中に配当金を新型コロナウイルス感染症流行前の水準に戻すことを目指しています。

そして、2023年3月期第2四半期決算の実績と通期業績予想の見通しを踏まえ、中間および期末の配当金を期初予想から各3円の増配となる1株当たり18円、年間配当金を36円とすることとしました。これは前期と比較すると年間8円の増配です。

当社グループは、株主の皆様への利益還元を経営の重要政策の一つとして認識していますので、外部環境も勘案しつつ、今後も安定的な配当を目指します。

Ⅲ. ファンタジースプリングス 開業時期および投資額の変更について





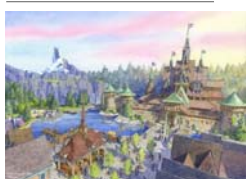
ファンタジースプリングス開業時期および投資額の変更について

開業時期

変更前	変更後	変更理由
2023年度中	2024年度第1四半期	入国制限、物流遅延、海外での製作作業の遅れによる工期の延長

投資額

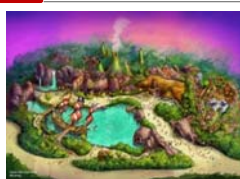
変更前	変更後	変更理由
約2,500億円	約3,200億円	<ul style="list-style-type: none"> ● 工期の延長 ● 資材費・人件費の高騰 ● デザイン・計画・工法の詳細化 ● 円安の進行



「フローズンキングダム」



「ラプンツェルの森」



「ピーターパンのネバーランド」



「東京ディズニーシー・ファンタジースプリングスホテル」

※画像はイメージであり、今後変更になる場合があります。

売上向上施策を検討し、投資対効果を見直す

ファンタジースプリングス開業時期および投資額の変更について

本日プレスリリースにて発表しましたとおり、開業時期と投資額をご覧のとおり変更しました。

開業時期につきましては、新型コロナウイルス感染症流行による入国制限によって、ディズニー社のスタッフが来日できなかった影響や、世界的な物流の遅延、また海外での製作作業の遅れにより、工期が延長になったため、2024年度第1四半期の開業になる見込みです。

投資額につきましては、工期の延長に加え、資材費や人件費の高騰、デザイン・計画・工法の詳細化、そして円安の進行を踏まえ、約700億円増の約3,200億円となる見込みですので、売上向上施策を検討し、投資対効果を見直してまいります。

ファンタジースプリングスは、現在各施設の建築工事が終了し、外装、内装の工事を進めている段階ですが、ゲストの皆さまに自信をもってお届けできるエリアに仕上がってきており、今後の弊社グループの中長期的な成長の要になると確信しています。

Appendix



オペレーションの状況

2023年3月期 第2四半期		7月	8月	9月
千葉県における緊急事態宣言/ まん延防止等重点措置の発令				
「遊園地・テーマパークにおける新型コロナウイルス 感染拡大予防ガイドライン」における 身体的距離の確保についての記載内容		キャパシティの100%以下、前後左右ともに人と人が触れ合わない程度の間隔		
運営時間	東京ディズニーランド/ 東京ディズニーシー	9～21時		
チケット価格 (大人1枚)		1デー	¥7,900/¥8,400/¥8,900/¥9,400	
		10時30分～	¥7,400/¥7,900/¥8,400/¥8,900	

【参考】2022年3月期 第2四半期		7月	8月	9月
千葉県における緊急事態宣言/ まん延防止等重点措置の発令		～8/1	まん延防止等 重点措置 8/2～9/30	緊急事態宣言
「遊園地・テーマパークにおける新型コロナウイルス 感染拡大予防ガイドライン」における 身体的距離の確保についての記載内容		キャパシティの100%以下、ソーシャルディスタンス1m以上		
運営時間	東京ディズニーランド/ 東京ディズニーシー	10～19時		
チケット価格 (大人1枚)		1デー	¥8,200/ ¥8,700	

従来の開示（2022年3月期まで）

売上高（億円）
入園者数（万人）
ゲスト1人当たり売上高（円）
チケット収入
商品販売収入
飲食販売収入



対象
●パークチケット
●アーリーエントリーチケット

今後の開示（2023年3月期から）

売上高（億円）
入園者数（万人）
ゲスト1人当たり売上高（円）
アトラクション・ショー収入
商品販売収入
飲食販売収入



対象
●パークチケット
●アーリーエントリーチケット
● 体験の収益化
（東京ディズニーリゾート・パッケージの 有償コンテンツ、ディズニー・プレミアアクセスを含む）

ゲストの選択肢を増やすことで体験価値の向上を目指すにあたり、開示内容を変更



2023年3月期 テーマパークイベント・新規アトラクションカレンダー

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
東京ディズニーランド	4/1~6/30	★「ディズニー・イースター」				9/15~10/31 ★「ディズニー・ハロウィーン」
	▶ 4/1~ ☆「ジャンボリミッキー！レッツ・ダンス！」	4/1~8/31 NEW	☆「バズ・ライトイヤーのアストロプラスター“アストロ・ヒーロータイム！”			▶ 9/15 NEW ◆「ミッキーのフルハーマッシュ」リニューアル
東京ディズニーシー	2021/9/4~2022/9/3	「東京ディズニーシー20周年：タイム・トゥ・シャイン！」				9/15~10/31 ★「ディズニー・ハロウィーン」
	▶ 4/1~ NEW	☆「ジャンボリミッキー！レッツ・ダンス！」				
	4/7~6/15 NEW	☆「タッフィー&フレンズのビューティフル・レイニーデイズ」				
				6/19~9/7 NEW	☆「タッフィー&フレンズのデスティ・サマー・サプライズ」	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
東京ディズニーランド	9/15~10/31 ★「ディズニー・ハロウィーン」			1/1~1/16 ★お正月のスペシャルイベント	1/18~3/31 NEW	★スペシャルイベント「名称未定」
		11/8~12/25	★「ディズニー・クリスマス」			
東京ディズニーシー	9/15~10/31 ★「ディズニー・ハロウィーン」			1/1~1/16 ★お正月のスペシャルイベント	1/18~3/31 NEW	★スペシャルイベント「名称未定」
		11/8~12/25	★「ディズニー・クリスマス」			
			11/7~2023/1/24 NEW	☆「タッフィー&フレンズのウィンター・トゥインクリング・タウン」		
			▶ 11/11~ NEW	◆「ピリーヴ！〜シー・オブ・ドリームス〜」		

★：スペシャルイベント ☆：プログラム ◆：新規アトラクション・ショーなど
 ※イベントの名称、開催期間および内容は変更になる場合があります。
 ※2022年10月27日時点で公表しているものを記載しています。



2022年3月期 テーマパークイベント・新規アトラクションカレンダー(参考)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
東京ディズニーランド	▶ 4/1 NEW 「ファンタジーランド・フォレストシアター」オープン			▶ 7/2 NEW 「クラブマウスビート」スタート		9/15 10/31 東京ディズニーリゾートのハロウィーン
	4/5~6/30 NEW 「ハッピーフェア・ウィズ・ベイマックス」					
			▶ 4/19 「ドリーミング・アップ！」再開			
東京ディズニーシー	▶ 4/1 「ビッグバンドビート」再開		6/1~9/2	「ダッフィー & フレンズのサニーファン」		9/15 10/31 東京ディズニーリゾートのハロウィーン
						2021/9/4~2022/9/3 NEW 「東京ディズニーシー20周年：タイム・トゥ・シャイン！」
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
東京ディズニーランド	9/15~10/31 東京ディズニーリゾートのハロウィーン			1/1 1/16 東京ディズニーリゾートのお正月		
		▶ 11/1 「東京ディズニーランド・エレクトリカルバラード・ドリームライツ」再開	▶ 12/1 「ディズニー・ライト・ザ・ナイト」再開			
		11/9~12/25 東京ディズニーリゾートのクリスマス			1/18~3/30 NEW 「トータリー・ミニーマウス」	
東京ディズニーシー	9/15~10/31 東京ディズニーリゾートのハロウィーン			1/1 1/16 東京ディズニーリゾートのお正月		
			▶ 12/1 「ディズニー・ライト・ザ・ナイト」再開			
		11/9~12/25 東京ディズニーリゾートのクリスマス			1/18~3/30 NEW 「トータリー・ミニーマウス」	
	2021/9/4~2022/9/3 NEW		「東京ディズニーシー20周年：タイム・トゥ・シャイン！」			

テーマパーク事業①	2022年3月期 実績	2023年3月期 修正予想	増減	増減率
売上高 (億円)	2,185	3,587*	1,401	64.1%
入園者数 (万人)	1,205	2,000	795	65.9%
ゲスト1人当たり売上高 (円)	14,834	15,551	717	4.8%
アトラクション・ショー収入	7,049	7,628	579	8.2%
商品販売収入	4,548	4,855	307	6.8%
飲食販売収入	3,237	3,068	△ 169	△ 5.2%

*2022年5月末を以って払い戻しを終了した有効期限切れチケットの収入34億円を売上高に計上しています。ゲスト1人当たり売上高には含まれません。

入園者数の増

- ・ 入園者数の制限緩和による増

ゲスト1人当たり売上高の増

- ・ アトラクション・ショー収入の増
 - － ディズニー・プレミアアクセスの増
 - － 東京ディズニーリゾート・パッケージの増
- ・ 商品販売収入の増
 - － ダッフィー & フレンズ新商品の増
 - － スペシャルイベント関連商品の増
- ・ 飲食販売収入の減
 - － 入園者数増加によるテーブルサービス店舗の利用構成比の減
 - － 入園時間指定券の構成増による喫食機会の減
 - － 前期、フードスーベニア好調による減

入園者数およびゲスト1人当たり売上高の増により売上高が増加

通期修正予想(前期比較)

(億円)

テーマパーク事業②

	2022年3月期 実績	2023年3月期 修正予想	増減	増減率
売上高	2,185	3,587	1,401	64.1%
営業利益	25	635	610	-

営業利益の増

売上高の増	
商品・飲食原価率の増	約△ 20
人件費の増	約△ 135
前期と当期の雇用調整助成金*の 受給差額	△ 71
準社員人件費の増	約△ 35
正社員人件費の増	約△ 15
その他	約△ 10

(億円)

諸経費の増	約△ 140
メンテナンス費の増	約△ 30
販売促進費の増	約△ 30
エネルギー費の増	約△ 25
システム関連費用の増	約△ 15
その他	約△ 40
減価償却費の増	△ 21
新規資産取得による増など	

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。
*雇用調整助成金の受給金額を営業費用から控除しています。

コストは増加するものの、売上高の増加などにより、増益

通期修正予想(前期比較)

(億円)

ホテル事業



	2022年3月期 実績	2023年3月期 修正予想	増減	増減率
売上高	474	710	236	49.8%
ディズニーホテル	437	653	216	49.5%
その他ホテル	37	57	20	54.2%
営業利益	62	165	103	166.4%

売上高の増

- ・ 東京ディズニーリゾート・トイ・ストーリーホテルの開業による増
- ・ 客室販売数の増による宿泊収入の増

営業利益の増

- ・ 売上高の増
- ・ 人件費の増 (約△ 15億円) - 準社員人件費の増、賞与計上差額
- ・ 諸経費の増
- ・ 減価償却費の増 (△ 12億円)

※コストにおける△表示は、営業利益に対する減少影響を示しています。

東京ディズニーリゾート・トイ・ストーリーホテルの開業などにより増収増益

(億円)

その他の事業



	2022年3月期 実績	2023年3月期 修正予想	増減	増減率
売上高	97	123	25	26.6%
営業利益	△ 13	△ 2	10	-

売上高の増

- ・ 乗降客数の増によるモノレール事業の増
- ・ 駐車場収入の増によるイクスピアリ事業の増

営業損失の減

- ・ 売上高の増

モノレール事業とイクスピアリ事業の増収により営業損失が改善



投資額・償却費 上半期実績(前年同期比較)

(億円)

投資額 (有形固定資産・無形固定資産・長期前払費用)	2022/3 実績	2023/3 実績	増減	主な増減要因
テーマパーク事業	329	232	△ 96	
東京ディズニーランド	14	45	30	スペース・マウンテン、ミッキーのフィルハーモニックのリニューアル、ディズニー・ハーモニー・イン・カラーの増
東京ディズニーシー	219	135	△ 84	東京ディズニーシー大規模開発プロジェクトの減
その他	94	52	△ 42	東京ディズニーシー大規模開発プロジェクトの減
ホテル事業	182	82	△ 99	東京ディズニーリゾート・トイ・ストーリーホテルの減
その他の事業	10	21	10	劇場事業の増
(消去又は全社)	△ 1	△ 0	0	
合計	520	336	△ 184	

償却費 (有形固定資産・無形固定資産・長期前払費用)	2022/3 実績	2023/3 実績	増減	主な増減要因
テーマパーク事業	180	186	5	
東京ディズニーランド	76	81	5	
東京ディズニーシー	63	60	△ 3	
その他	40	44	4	
ホテル事業	18	24	6	
その他の事業	15	15	0	
(消去又は全社)	△ 0	△ 0	△ 0	
合計	214	226	12	

※償却費には営業外費用の振替額は含んでいません。



投資額・償却費 通期修正予想(前年同期比較)

(億円)

投資額 (有形固定資産・無形固定資産・長期前払費用)	2022/3 実績	2023/3 修正予想	増減	主な増減要因
テーマパーク事業	608	956	347	
東京ディズニーランド	30	190	159	スペース・マウンテン、ディズニー・ハーモニー・イン・カラー、ミッキーのフルハーマジックのリニューアルの増
東京ディズニーシー	411	577	165	東京ディズニーシー大規模開発プロジェクトの増
その他	166	188	22	バックステージ環境改善の増
ホテル事業	377	191	△ 186	東京ディズニーリゾート・トイ・ストーリーホテル、東京ディズニーシー大規模開発プロジェクトの減
その他の事業	19	38	19	劇場事業の増、モノレール事業
(消去又は全社)	△ 3	△ 0	2	
合計	1,002	1,185	183	
償却費 (有形固定資産・無形固定資産・長期前払費用)	2022/3 実績	2023/3 修正予想	増減	主な増減要因
テーマパーク事業	365	386	21	
東京ディズニーランド	155	163	8	
東京ディズニーシー	125	130	4	
その他	83	91	8	
ホテル事業	36	48	12	東京ディズニーリゾート・トイ・ストーリーホテルの増
その他の事業	32	33	0	
(消去又は全社)	△ 0	△ 0	0	
合計	432	467	34	

※償却費には営業外費用の振替額は含んでいません。

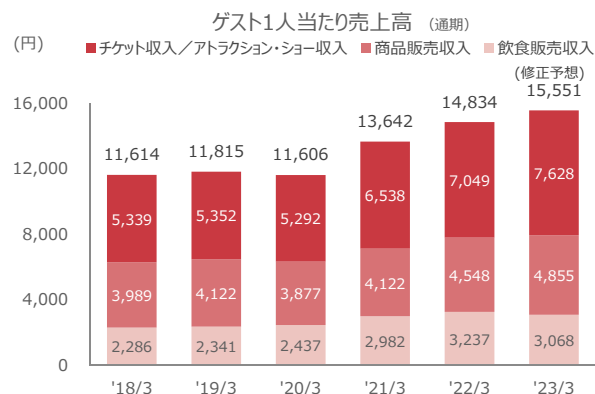
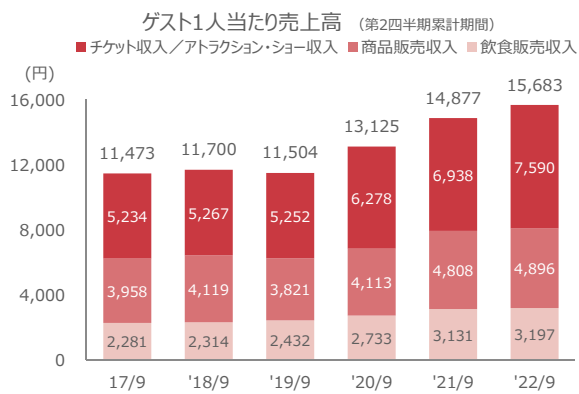
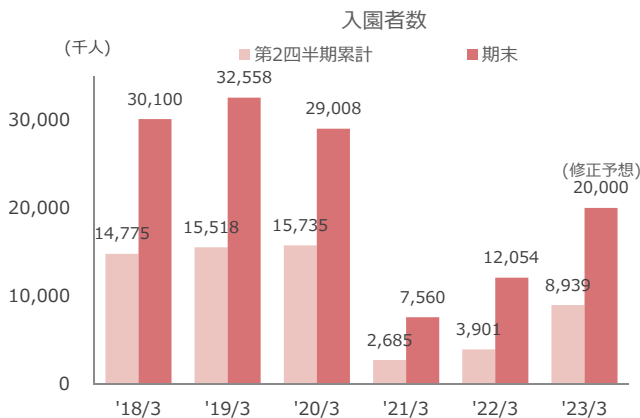


投資額・償却費 通期修正予想(期初予想比較)

(億円)

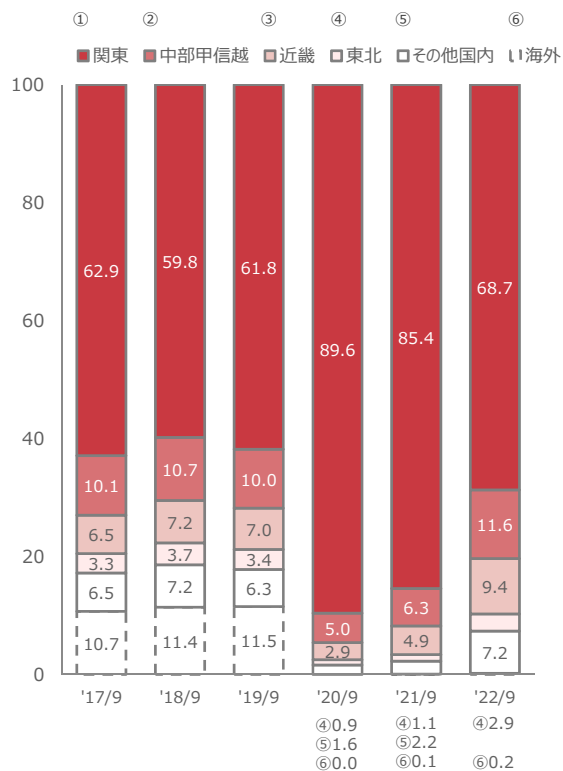
投資額 (有形固定資産・無形固定資産・長期前払費用)	2023/3 期初予想	2023/3 修正予想	増減	主な増減要因
テーマパーク事業	995	956	△ 39	
東京ディズニーランド	192	190	△ 2	
東京ディズニーシー	580	577	△ 3	
その他	222	188	△ 33	バックステージ環境改善の減、東京ディズニーシー大規模開発プロジェクト
ホテル事業	190	191	1	
その他の事業	44	38	△ 5	
(消去又は全社)	△ 0	△ 0	△ 0	
合計	1,229	1,185	△ 43	

償却費 (有形固定資産・無形固定資産・長期前払費用)	2023/3 期初予想	2023/3 修正予想	増減	主な増減要因
テーマパーク事業	393	386	△ 7	
東京ディズニーランド	162	163	1	
東京ディズニーシー	130	130	△ 0	
その他	100	91	△ 8	
ホテル事業	49	48	△ 0	
その他の事業	33	33	△ 0	
(消去又は全社)	-	△ 0	△ 0	
合計	476	467	△ 9	

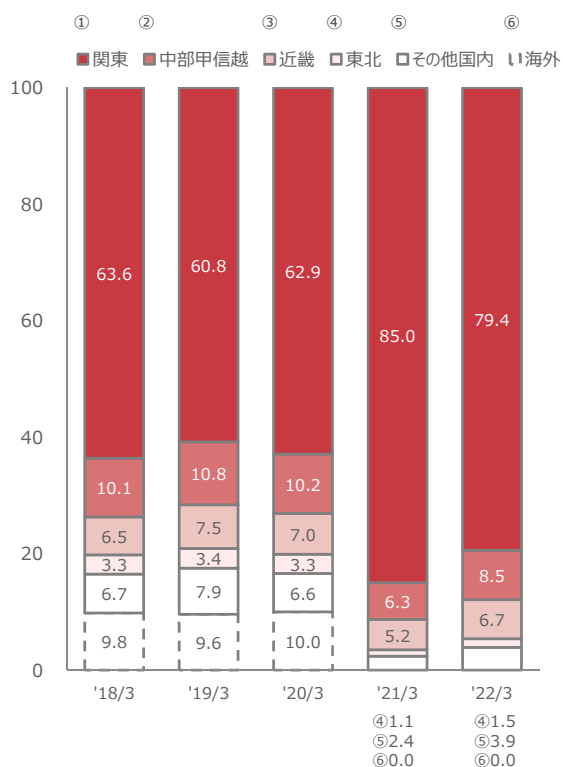


※2022年3月期以前の実績はチケット収入、2023年3月期の実績はアトラクション・ショー収入です。詳細はAppendix P23をご参照ください。

地域別来園者比率 (第2四半期累計期間)



地域別来園者比率 (参考：2022年3月期までの通期実績)





連結貸借対照表（実績/前期末）

連結貸借対照表	(億円)		
	前期末	当四半期末	増減
A.資産の部			
流動資産	2,714	2,922	207
固定資産	8,154	8,234	79
資産合計	10,868	11,156	287
B.負債の部			
流動負債	852	895	43
固定負債	2,453	2,448	△ 4
負債合計	3,305	3,344	39
C.純資産の部			
株主資本	7,435	7,657	222
その他の包括利益累計額	128	154	26
純資産合計	7,563	7,812	248
負債純資産合計	10,868	11,156	287

【A. 資産の部 287億円の増（2.6%増）】	
I. 流動資産 207億円の増	
(1) 有価証券の増	160億円
(2) 受取手形、売掛金及び契約資産の増	71億円
II. 固定資産 79億円の増	
(1) 設備投資による増	336億円
(2) 減価償却による減	△ 226億円
【B. 負債の部 39億円の増（1.2%増）】	
I. 流動負債 43億円の増	
(1) 未払法人税等の増	47億円
(2) 支払手形及び買掛金の増	21億円
II. 固定負債 4億円の減	
(1) 長期借入金の減	△ 9億円
【C. 純資産の部 248億円の増（3.3%増）】	
(1) 利益剰余金の増	215億円
・親会社株主に帰属する四半期純利益による増	264億円
・配当による減	△ 49億円



株式会社オリエンタルランド 経理部IRグループ

047-305-2034 www.olc.co.jp

注意事項：

本資料は、OLCグループの業績及び今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料にて開示されているデータは、発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものです。当社グループの事業は、顧客嗜好・社会情勢・経済情勢等の影響を受けやすい特性を持っているため、本資料で述べられている予測や見直しには、不確実性が含まれていることをご承知おきください。

テーマパーク入園者数については単位未満を四捨五入、財務データについては単位未満を切り捨てて記載しています。
本資料の転載はご遠慮ください。